

ニュース報道およびブログ等に見られる

「～です」文の意味・機能

— 「～を徹底取材です」 「～に期待です」 「～をよろしくです」 —

鈴木 智美

1. 本稿の目的
2. 先行研究における分析
 - 2.1. 擬似名詞述語文
 - 2.2. 「だ」の「動作付け」の機能
 - 2.3. 「だ／です」の話し手の発話態度を伝える機能
3. ニュース報道における「～です」文
 - 3.1. ニュース報道における「～です」文の形式的特徴
 - 3.2. ニュース報道における「～です」文の意味・機能
4. ブログ等における「～です」文
 - 4.1. ブログ等における「～です」文の形式的・意味的特徴
 - 4.2. ブログにおける「動名詞 (VN) +です」文
 - 4.3. ブログにおける「感動詞相当句+です」文
5. 2つの「～です」文のリンクおよび今後の課題

1. 本稿の目的

本稿では、以下のような2つの異なる文脈・場面で用いられる「～です」文について、実例を基にその形式的特徴を記述し、その意味・機能および両者の関連性について考察を試みることを目的とする。

1 つは、テレビの報道番組等において耳にする以下の例(1)～(6)のような「{動名詞 (VN) ¹⁾ / 名詞 (N) +です」の形をとる文である ²⁾。ニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる際の切り出し方、あるいは用いられる動名詞 (VN) によっては、ニュースを締めくくるときのコメントなどとして特徴的に観察される。

(1) オグシオペアでバドミントンを盛り上げた小椋選手が引退です。(10.01.12 「N」 ³⁾)

- (2) 鳩山内閣支持率急落。その背景を徹底取材です。(09.12.20「真」)
- (3) 関西電力管内でも10%以内の節電を要請です。(11.07.20「ス」)
- (4) 新しい布陣で攻撃力を上げられるかに注目です。(11.06.07「おはよう」)
- (5) 大学入学試験、不正防止へ対策強化です。(11.03.08「7」)
- (6) (薬師寺東塔について) 市川団十郎さんが舞を奉納。近く113年ぶりの大修理です。(11.06.25「7」)

これらの「～です」文は、「が」以外にも「を／に」等の格助詞を伴う補語が観察され、通常の名詞文とは異なる形をとっている。意味的に見ると、(1)は、動名詞(VN)の表す出来事(「引退」)が生じる、あるいは生じたこと、(2)(3)は、動名詞(VN)の表す動作・行為(「徹底取材」「要請」)が行われる、あるいは行われたこと、(4)は動名詞(VN)の表す動作・行為(「注目」)が行われる、あるいはそれを行おうと呼びかけること、(5)(6)は、名詞で表される物事・事態(「対策強化」「大修理」⁴⁾)が行われる、あるいは行われたことを表している。

これらの「～です」文は、通常の文のように「引退することになりました」「徹底取材／要請しました」「注目しましょう」「対策強化／大修理が行われます」と述べるのと、その意味・機能にどのような違いがあるのだろうか。

また、もう1つは、新聞の投書欄や雑誌のエッセイ、あるいはウェブ上のブログ⁵⁾記事等において目にする、以下の例(7)～(9)のような「{動名詞(VN)／感動詞相当句⁶⁾}+です」の形をとる文である。

- (7) 夫が65歳で定年退職して、もう2年がたった。[中略] その夫がこの秋、栗の渋皮煮を作ってくれた。[中略] こんなささやかなことだけど、とてもうれしい。一生懸命に作ってくれた夫に感謝です。

(09.12.09「ぷらざ」読売新聞)

- (8) 勢いに任せてついでにツイッターも始めてみたが、これも特に名乗らずにやっている。
 [中略] 僕もこのままフォロー無しの状態が続くと寂しいので、ひょっとしたら山手線あたりでリアルツイッターとしてデビューする日が来るかもしれないが、その時は色々な意味で皆さんのフォローをよろしくです。

(「ブログデビュー 劇団ひとり」『週刊文春』2010年6月3日号)

- (9) うちのみかんの樹にも実りの秋がやってきました。[中略] みかんもゆずも期待していませんでしたが、黙って実を結び、しっかりと育ってくれています。自然の恵みにあ

りがとうです。

(10.10.28 <http://blog.smileworld.main.jp/?eid=1040723>) ⁷⁾

(7)は新聞の読者投書欄の記事である。投書の最後は「感謝します/したいです」ではなく、格助詞「に」を伴う補語の次に「動名詞 (VN) +です」が続き、「夫に感謝です」という文で締めくくられている。(8)は週刊誌の連載エッセイ記事の一部である。最後の文は、「よろしくお願ひします」ではなく、「皆さんのフォローをよろしくです」となっている。(9)はブログに公開されている記事から採取した例である。格助詞「に」を伴う補語に「感動詞相当句+です」が続き、「自然の恵みにありがとうです」となっている。

このような「～です」文は、通常の文のように「感謝します」「よろしくお願ひします」「ありがとう」と述べるのとでは、その意味するところ、また聞き手(読み手)への伝え方においては何が異なるのだろうか。

ニュース報道やブログにおいて(1)～(9)のような「～です」文が観察されることについては、鈴木(2009, 2010)で指摘したが、本稿では、実例に基づいてこれらの「～です」文の形式的特徴を明確に整理・記述するとともに⁸⁾、その使用文脈・場面を含めた意味・機能⁹⁾について、両者の「～です」文を統一的に記述することが可能かどうかという点を念頭に置きつつ考察していきたい。

2. 先行研究における分析

2.1. 擬似名詞述語文

このような統語的特徴を持つ名詞文の存在自体は、既に先行研究において指摘されている。例えば南(1973)は、述部の中心をなす品詞の違いに基づき、このような名詞文を「擬似名詞述語文」として通常の名詞文とは分けて記している。

南(1973:60-62)は擬似名詞述語文には2種類あるとし、そのうちの1つは、「ボクラハ12日ニ神戸カラ船デ出発ダ」「工事ハ今日中ニ終了ダ」のように、述部に動作的意味を持った漢語名詞(「出発」「終了」など)が使われることが多いとする¹⁰⁾。また、もう1つは、「ワタシハカレーライスデス」「リカチャンハバイオリンデ、ジュン子チャンハピアノダ」のような「ウナギ文」¹¹⁾と呼ばれるものであると指摘している。

また、これらの擬似名詞述語文の構文的特徴については、述部は名詞述語文的だが、述部以外の諸成分は動詞述語文的であり、一種のハイブリッド的性格の構造を持つとしている。ただし、このような擬似名詞述語文がどのような文脈・場面で用いられ、どのような意味・機能を持つのかという観点からの記述はなされていない。

また、三上（1972）も、「姉サンハ台所デス」「明日カラ学校ダ」「僕ハ紅茶ダ」のような名詞文を「端折リ-第三準詞文」として挙げている [三上 1972:45] が、その意味・機能について詳細に分析・記述は行っていない。

2.2. 「だ」の「動作付け」の機能

ニュース報道においては、ニュースキャスターは視聴者に向けて発話を行っている。ブログでも、それがウェブ上に公開されるものである限り、書き手は読み手の存在を意識した上で記述を行っていると思われる。本稿において注目する「～です」文も、文末に現れるのはいずれも普通体の「だ」ではなく、丁寧体の「です」となっている。ただし、文体は異なるものの、「だ」については、高橋（1984）において「動作付け」¹²⁾の機能を持つことが既に指摘されている。

高橋（1984:30）は、「動作づけは、名詞述語の本来の任務ではない」としながらも、名詞述語文には「サ変動詞の『スル』のかわりにコンピュータをつけたようなもの」が観察されるとし、「あっしょもうこれっきり断然絶交だ！」「われわれもいよいよあす出発だ」などの例を挙げている。これは、南（1973）の挙げる2種類の擬似名詞述語文のうち、1つめの動作的意味を持つ漢語名詞が述部に使われる文に相当するものであろう。また、同様に動作付けの名詞述語文だと言い切る自信はないとしながらも、「知れるとめんどうだから、今夜のことはだれにも絶対に秘密よ」のような動名詞（VN）以外の名詞を用いた例も、動詞述語の省略のようなものが名詞述語化したように見えるとして挙げられている [高橋 1984:30]。しかし、「動作付け」の意味的な側面については、詳細な記述はなされていない¹³⁾。

また、メイナード（2005:241）も、「だ」には我々の判断を示したり、情報を強調して提示する機能があるとし、「オートバイもリサイクルだね」という広告を例に挙げ、この場合の「だ」は、「リサイクルをしよう」という「動作付け」の文を構成するとする。また、教師が使う「明日はテストですよ」（下線は引用者）のような例も「動作付け」文であるとしている。ただし、挙げられている例が少ないこともあり、「動作付け」とはどのようなものか、やはりその意味・機能が十分に記述されているとは言えない。

これらの先行研究で挙げられている例を見る限り、「動作付け」とは、その名詞に関わるところの動作・行為が、話し手あるいは聞き手によって意図的に行うことが可能な場合が対象として記述されているように思われる¹⁴⁾。

しかし、本稿において注目する「～です」文は、その特徴的に使用される文脈・場面の1つはニュース報道である。ニュース報道で、ニュースキャスターは聞き手にニュースを伝えるという役割を担っており、必ずしも「～です」文によって、自ら意図的な動作・行為についての「動作付け」を行っているとは言いきれない。例えば、例(1)の「～選手が引退です」などは、

動名詞 (VN) の表す出来事 (「引退」) が生じる、あるいは生じたことを聞き手に報告・伝達するものであり、「引退する」という動作・行為は、話し手や聞き手の行うものではない。以下の(10)~(12)のような例も同様に、ニュースキャスターがある事態や出来事が生じたことを描写・報告するものであり、用いられている名詞が動名詞 (VN) であるか否かに関わらず¹⁵⁾、いずれも自らが意図的な動作・行為の「動作付け」を行っているとは考えにくい¹⁶⁾。

- (10) 岡本太郎氏の巨大壁画にいたずらです。(11.05.02「ス」)
- (11) ウクライナの議会で議員が殴り合いのけんかです。(10.05.01「海」)
- (12) 公開映像は自分だとする男をめぐり、新事実です。(09.12.01「N」)

ブログ等に見られる「感動詞相当句+です」文にも、「動作」と言えるものは明確に伴わず、「動作付け」が行われているという記述では、その意味・機能は十分にとらえられないのではないかと思われる。

2.3. 「だ/です」の話し手の発話態度を伝える機能

メイナード (2000, 2005) は、「だ」には、話し手の「肯定して断定する」という発話態度を伝える、「指標」として機能する場合があるとしている。このような「だ」は「情意の『だ』」と呼ばれ、話し手が強く断定し、確信や強調を伝えることを「情的態度の表明」としている¹⁷⁾。

ニュース報道においては、話し手であるニュースキャスターが聞き手である視聴者に対し、ニュースを伝えるという言語行為においてははっきりと断定する態度をとり、自ら確信や強調を表明しているのだと考えることはできるだろう。ただし、ニュース報道における「～です」文の意味・機能を十分に記述するためには、これがニュースの解説途中ではなく、もっぱら新しい話題 (ニュース) を切り出す際や、1 つのニュースを締めくくる際に特徴的に観察されるという、その使用文脈にも着目する必要があると思われる。

また、メイナード (2005:344-345) は、「心からありがとうございます」のような文に見られる「です」(「だ」) の機能についても同様のものと見ている。しかし、ブログなどにおいて、なぜそのような「です」を伴った「感動詞相当句+です」という形の文が多く見られるようになっているのか、さらに踏み込んだ考察を行うことが必要ではないだろうか。

3. ニュース報道における「～です」文

3.1. ニュース報道における「～です」文の形式的特徴

ニュース報道における「～です」文は、「が/を/に」等の格助詞を持つ補語を伴い、「{動

名詞 (VN) / 名詞 (N) } + です」の形をとる。通常、無題文であり、文末の「です」は過去形や否定形では現れない。

ニュース報道における「動名詞 (VN) + です」文（「引退です」「要請です」「注目です」など）が「が／を／に」等の格助詞を持つ補語を伴うのは、影山 (1993:22-41) で指摘されているように、動名詞 (VN) 自体が項構造を持ち、さらに格を付与する力を備えているということに由来すると考えられる。

一方、「名詞 (N) + です」文（「対策強化です」「大修理です」「新事実です」など）が同様の補語を伴って現れることが可能なのは、南 (1973) が「擬似名詞述語文」についての記述で指摘しているように、このような名詞文がいわゆる「ウナギ文」であるためと思われる。

「ウナギ文」とは、2.1 節 (注 11)) でも既に触れたように、「A は B だ」という名詞文の述部「名詞 (B) + だ」の部分が、「名詞 (B) + 格助詞 + {動詞 / 形容詞}」の代用をしているとされるものである [奥津 1978]。述語が前提されていることによって、このような「だ」による代用が可能となるとされる¹⁸⁾。

このような「～です」文に現れる動名詞 (VN) は、南 (1973) が指摘するように、漢語動名詞の他に以下のように和語や外来語の動名詞も観察され、また例(17) のように混種語の動名詞が用いられる例も観察された¹⁹⁾。

- (13) 大学のキャンパス内でイノシシが大暴れです。(10.01.05「フラッシュ」)
- (14) (地元の高校生たちが) お世話になった鉄道に恩返しです。(11.02.21「7」)
- (15) (サッカーワールドカップについて) 世界で戦いがスタートです。(10.07.14「ス」)
- (16) 横綱白鵬も連勝をキープです。(10.03.23「N」)
- (17) ルース中日大使に後藤アンカーが単独インタビューです。(10.02.12「N」)

また、新しい話題 (ニュース) を切り出す際に用いられることから、通常これらの「～です」文は無題文である²⁰⁾。ニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる際の切り出し方としては、以下の(18a)(19a)のような述べ方は不自然であり、(18b)(19b)のほうが自然である²⁰⁾。

- (18) a. ?北島康介は、2年ぶりに日本代表に復帰です。
 b. 北島康介が、2年ぶりに日本代表に復帰です。(10.04.19「スタ」)
- (19) a. ?本物の弁護士は、ニセ者を撃退です。
 b. 本物の弁護士が、ニセ者を撃退です。(11.07.01「ス」)

また、文末の「です」が過去形や否定形で用いられることはない²²⁾。

(20) 一方、こちらは特急が{脱線です/?脱線でした}。(10.01.29「N」)

(21) 自殺を図ったカメラマンが意識を{回復です/?回復ではありません}。(11.02.20「真」)

3.2. ニュース報道における「～です」文の意味・機能

ニュース報道における「～です」文は、報道番組等でニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる際の切り出し方、あるいはニュースを締めくくる際のコメントとして特徴的に観察される。何らかの新しい動き・変化があったこと、あるいは事態が何らかの新しい局面を迎えたことを、注目すべき新しい情報として聞き手に伝える機能を担っていると考えられる。「です」の持つ断定の意味が、ニュース報道において新しい話題(ニュース)を導入するという特徴的な使用場面と結びつき、このような機能を獲得しているのではないだろうか。

(22) 政治資金をめぐる問題、捜査が終結です。(10.04.26「7」)

(23) 民主党の小沢幹事長、軍拡路線に懸念を表明です。(09.12.11「イ」)

(24) マクドナルドでは、今日から新しくニューヨークバーガーが発売です。(10.02.05「ス」)

(25) 女子の中で最も多いトリプルアクセルの成功と、ギネス世界記録に認定です。(10.04.12「おはよう」)

動名詞(VN)の表す動き、あるいは動作・行為について、(22)(23)は「～する(ことになった) / した」、(24)(25)は「～される(ことになった) / された」の意味を表している。

「名詞(N) + です」文の場合は、以下の(26)～(28)のように、名詞(N)で表される物事・事態、あるいはその事物の関与する事態が「起こる・生じる / 起こった・生じた / 起こっている・生じている」の意味を表している²³⁾。

(26) 連続通り魔事件で判決です。(09.12.18「N」)

(27) ニューヨークのタイムズスクエアで白昼の銃撃戦です。(10.12.11「イ」)

(28) もと俳優の押尾容疑者に再び逮捕状です。(09.12.06「真」)

いわゆる「ウナギ文」は、文脈により様々な解釈が可能であるとされる。ニュース報道で新しいニュース(話題)が導入されるという文脈・場面のもとで「判決です」と言われれば、それは「判決が出ます / 出ました」ということであり、「銃撃戦です」と言えば「銃撃戦が起こ

りました」というように、新たな物事・事態が発生したという自然な解釈が可能となると考えられる。

また、ある話題についての締めくくりのコメントとしては、「注目です」「期待です」など、用いられる動名詞がある程度限られていると思われる。この場合には「今後に {注目/期待} しましょう」の意味を伝えることになる。

- (29) お互いにどのように協力し、レベルアップを図っていくか、今後に注目です。(10.11.02 「おはよう」)
- (30) (新人投手について) これからの活躍に期待です。(11.02.02 「おはよう」)

4. ブログ等における「～です」文

4.1. ブログ等における「～です」文の形式的・意味的特徴

ブログ等の「～です」文は、「{動名詞 (VN) / 感動詞相当句} + です」の形をとる。「を / に」等の格助詞を持つ補語は、伴わない場合も多い。過去形（「～でした」）が用いられる点がニュース報道と異なる。否定形では現れない。

その語用論的な意味としては、対人関係的な配慮が見られること²⁰が特徴的ではないかと思われる。先行研究でも指摘されているように「です」が話者の肯定的断定の発話態度を伝える機能を持つことから、このような「～です」文を用いることで、動名詞や感動詞相当句の示す感情・心情が、あくまで話し手自身がそのように感じ、考えるものであるという形で表明されることになるのではないだろうか。

話者（書き手）は、感謝や謝罪を表す表現をそのまま用いて直接的に感情を表出したり、あるいは依頼表現を用いてストレートに訴えかけを行うことによって、聞き手（読み手）に心的負担を与えること、また、それに対するとまどいや反発や拒否などの反応が聞き手（読み手）に生じた場合、それが結果的に話者（書き手）自身への心的負担として返って来るという可能性を避けつつ、その心情表明を行っているのではないだろうか。そこには、それらの心情を向けるべき対象者が、直接的なブログの読み手とは必ずしも一致しないというブログ特有の要因も関わっていると思われる。このような「～です」文は、ブログなどのメディアにおいては、話者（書き手）が対人的な心理負担を避けながら自身の心情を述べたり、依頼や感謝、謝罪などを間接的に述べるという、コミュニケーション・ストラテジーの1つとして機能している可能性が考えられる。

また、形式によっては、あるまとまった内容を持つ談話の終了部に現れ、締めくくりの機能を果たすことが観察される。

4.2. ブログにおける「動名詞 (VN) +です」文

実際に、ブログに見られる「～です」文から、「動名詞 (VN) +です」文の例として「感動です」「反省です」「感謝です」「期待です」「注目です」²⁵⁾を取り上げ、その意味・機能を探ってみる²⁶⁾。

- (31) 池間島の満天の星空探検へ。雲ひとつない絶好の夜。車のライトを消すと、降り注ぐ星空に・・・感動です。

(11.09.28 <http://blog.goo.ne.jp/ikemajima147/e/06335a59e24139dd7339fdc8c96a3fbc>)

- (32) わずか 2 日間の活動でしたが、かなり色々と動きました。[中略] 何もなくなったふるさとを再起する為に自分自身の仕事を頑張るそれぞれの姿に感動です。

(11.09.29 <http://blog.livedoor.jp /kaizen tai1/archives/52216939.html>)

- (33) 初めてミュージカルを観たのですが！ [中略] 徳島にこんな素晴らしいミュージカルスクールがあったことに感動でした！

(11.08.06 <http://seitai.betoku.jp/article/0425315.html>)

- (34) 差し迫った事が山積みなのに、なかなか本腰あげられません。[中略] ひとつずつ出来ることだけ、コツコツと頑張る努力をしないとイケないな、と反省です。

(11.09.28 <http://blogs.yahoo.co.jp/chimakoumama/63197363.html>)

「感動しました」「反省しました」と直接的に体験を述べるのではなく、話し手の肯定的判断の態度を伝える「です」を用い、「感動です」「反省です」とすることによって、あくまでブログの書き手がそのように判断したのであるという態度で、それらの心情が表明されることになるのではないと思われる。感動や反省などは書き手側の個人的な心情と言えるが、それを表明する際、読み手に対し直接的な押しつけがましい記述となることを避けようとする働きがあるのではないだろうか。

- (35) 九州秋のキャンピングカーショー2011in 福岡ドームも昨日で無事終了いたしました！
ご成約いただいたたくさんのお客様をはじめ、ご来場くださったすべてのお客様に感謝です！

(11.09.26 <http://blog.goo.ne.jp/bpgumi/e/44e93bc8030f578941821a7e96c77ef>)

- (36) ミスチルにとって今年最後のコンサートになるだろう場所を、仙台に選んでくれてありがとう！ [中略] あっと言う間の 3 時間でした。 [中略] 同じ空気、時間を共有で

きた事に感謝です。

(11.09.26 <http://blogs.yahoo.co.jp/hiyori2427/10863795.html>)

- (37) とても素敵な演奏会でした！[中略] さほど大きく告知もしていないのですが、ほぼ満員状態のホールと割れんばかりの拍手。そしてこれから先有名なられるソリストの方々との競演に、ただただ感謝でした。

(11.09.18 <http://kokoayuki.exblog.jp/16305040>)

- (38) 京都は勝ちました。最後の最後で、連敗脱出です。[中略] 今後は原点回帰のチャンスと捉え、Team を一から作り直すぐらいの気持ちで再建し来期のFightを期待です。

(10.12.05 <http://dear-blog-sekiguuu.blog.so-net.ne.jp/2010-12-05>)

- (39) 今朝は曇りでウェットというコンディションでしたが、現在のサーキットはこんな感じですよ。[中略] いつもに比べてあまり暑くないなあと感じるのは風のおかげかもしれませんね。お盆も過ぎたのでちょっとずつ涼しくなってくれることに期待です。

(11.08.24 http://www.ts-takata.com/2011/08/post_368.php)

- (40) 来年は米大統領選と中国共産党大会が、20年に1度重なる年で、世界1位と2位の経済大国で景気浮揚が至上命令となるようです。どうなるか、注目ですね。そろそろ、時間がないので、本日はこのへんで。

(11.12.12 <http://blog.livedoor.jp/hisa64/archives/1868985.html>)

- (41) Hot mama リーダーズとして大人気のランゲージブレスの五十嵐菜摘さんがデザイナーデビュー。[中略] 五十嵐さんのこだわりが詰まった新ブランドは、女性より素敵に見せてくれること間違いなし！来春、店頭に並ぶのが待ち遠しい“jOUR de Language”に注目です。

(11.12.20 <http://sakuramama.jp/2011/12/20/p-20228>)

- (42) この冬、「しょうが」に注目です！「しょうが」には、体を温める成分「ジンゲロール」と「ショウガオール」とが含まれているそうで、寒い冬に注目の「しょうが」で寒さ対策。

(10.12.17 <http://jptaka.com/knowning/health-shoga.html>)

何らかの経緯・事情について語った後、最後に感謝の気持ちや今後への期待や展望を述べるということは、一般的な談話の展開として想定されるものと思われる。「感謝です」「期待です」「注目です」が、上記の例(35)～(41)のように、あるまとまった内容を持つ談話の終了部分に現れ、締めくくりの機能を果たしていると思われる例が観察される。ただし、「注目です」は、締めくくりの部分だけでなく、例(42)のようにブログ冒頭のタイトル部分に使用されてい

る例も観察される。

ブログの書き手が表明しようとしている感謝や期待などは、実は必ずしもブログの読み手が直接にその対象者と一致しているとは限らない²⁷⁾。そのため、書き手は直接の当事者ではない可能性のある読み手に向けて、「感謝します」「期待します」など、それを発話することによって同時に「感謝」や「期待」という気持ちの表明を明示的に行うことのできる、いわゆる遂行動詞²⁸⁾をそのままの形で用いることを避けているのではないだろうか。読み手に対して直接的に感謝や期待の表明を行うことはせず、「です」を用いることでそれらの感謝や期待があくまで話者自身が感じ、考えるものであるとの形で述べ、ブログの読み手が、必ずしもそれらの気持ちが向けられるべき対象者と一致していないという、この“ずれ”の問題に対処しているのではないかと考えられる。

4.3. ブログにおける「感動詞相当句+です」文

ここでは、コミュニケーション機能の観点から、依頼、感謝、謝罪を表す「よろしく」「ありがとう」「ごめんなさい」という3つの表現に着目して見てみる。

- (43) この家紋キーホルダーは人気ですね。[中略] ぜひ孫子の代まで自分の家の家紋を伝えていってもらいたいものです。というわけで家紋木札・円木札をよろしくです。

(10.10.23 <http://ameblo.jp/kifuda/entry-10683849362.html>)

- (44) 8月に開始した EC ナビケータイ。利用に応じて EC ナビポイントがたまる、というコンセプトで始めて約 4 ヶ月。[中略] お得なケータイとしてぜひ EC ナビケータイをよろしくです。

(09.11.11 <http://ameblo.jp/usami/entry-10386083245.html>)

話者（書き手）には、ブログにおいて話題として取り上げている事物を広く宣伝あるいは広報したいという意図はあると思われるが、ブログを目にした読者が必ずしも皆、その事物に興味を持って話者（書き手）の意図に賛同するとは限らない。読み手側に拒否や反発、とまどいや困惑などの感情が生じることや、結果的にそれが書き手自身に反応として返って来る可能性などを、「よろしくお願いします」という直接的な依頼表現²⁹⁾の形式をとらないことによって、あらかじめ避ける働きをしているのではないだろうか。

- (45) 9月20日発売の「ku:nel クウネル」に掲載されました。[中略] 他にも心が和む記事がたくさんでした。本屋さんに寄られた際は是非手にとってみてくださいね。とって

ニュース報道およびブログ等に見られる「～です」文の意味・機能
 —「～を徹底取材です」「～に期待です」「～をよろしくです」—：鈴木 智美

も気さくで気持ちの良い編集者の方々に感謝です。[中略] 出逢えたご縁にありがとうです。

(11.09.24 <http://omusubimawaru.jugem.jp/?eid=175>)

- (46) 懲りずにやって来ました量販店。[中略] 値段もさることながら、販売員さんが買い物を楽しいものにしてくれました。[中略] 楽しい買い物をありがとうです。

(11.09.25 <http://blogs.yahoo.co.jp/samoalpha/30394779.html>)

- (47) 今夜はお月様のあかりに誘われ [中略] お月見会に遊びに行ってきました。[中略] おもてなしが、心にほっこりと染み渡ってゆくようでした。[中略] 素敵な夜をありがとうでした。

(11.09.13 <http://potorinikki.blog.shinobi.jp/Entry/268>)

- (48) 食べ終わったら、また涙が出てきました。さっきよりたくさん泣きました。[中略] 泣きながらよくよ考える、弱く小さな私。かっこ悪すぎてごめんなさいです。

(11.09.25 <http://ichigo3.blog52.fc2.com/blog-entry-1439.html>)

- (49) 雨が続いた不安定なお天気の中、[中略] お越しいただきましたみなさま、ありがとうございます！ [中略] コマモノたちは、かなり少なめで、お買いものにお越しいただいたお客様には物足りなさがあつたかもしれません…ごめんなさいです…

(11.09.24 <http://ahenahe.blog110.fc2.com/blog-entry-1218.html>)

肯定的断定の発話態度を伝えるとされる「です」を用いることで、感謝あるいは謝罪の気持ち、あくまで話し手側のとらえ方として表明される形となっていると思われる。その背景には、書かれている事柄について感謝・謝罪を伝えるべき相手が、やはり不特定多数のブログの読み手とは必ずしも一致しないことがあるのではないだろうか。ブログにおいて、感謝や謝罪などの心情は、特定の人物を想定して述べられるものだけではなく、書き手自身の個人的な感慨や自戒の念として述べられる場合も多い。ブログの読み手が必ずしもお礼やお詫びを述べられる当事者であるとは限らず、そのような読み手に向けて「ありがとうございます」「ごめんなさい」という直接的な感謝・謝罪の表現³⁰⁾を用いることによって、読み手に違和感などの心的負担が生じることを避ける方策がとられているのではないかと思われる。

5. 2つの「～です」文のリンクおよび今後の課題

以上、本稿では、ニュース報道やブログ等で観察される「動名詞 (VN) +です」文、「名詞 (N) +です」文、および「感動詞相当句+です」文について、その形式的特徴と意味・機能について実例に沿って見てきた。これらの文は、いずれも「です」を伴い、テレビのニュース

報道やウェブ上のブログなど、聞き手（読み手）の存在を意識して発話・記述が行われる環境に現れるようになってきていることが共通している。

ニュース報道においては、このような「～です」文は、何らかの新しい動き・変化があったこと、あるいは事態が何らかの新しい局面を迎えたことを注目すべき新しい情報として聞き手に伝えるという場面で用いられている。「です」の持つ断定の意味が、ニュース報道において新しい話題（ニュース）を導入するという場面・文脈と結びつき、このような機能を発揮することとなっているのではないかと考えられる。一方、ブログ等においては、「です」の持つ同じ断定の機能が別の働き方をしている。ここでは、話者（書き手）が直接的な訴えかけを避け、読み手に心理的負担をかけずに、結果的に書き手自身の心的負担も避けつつ、その心情を表明する働きをしているのではないかと思われ、新しいコミュニケーション・ストラテジーの1つとして働いている可能性がうかがわれる。

双方の「～です」文に共通して現れる「動名詞（VN）＋です」文は、特徴的に結びつく動名詞（VN）に違いはあるものの、同一の構文がこれらの異なる使用場面に結びついてそれぞれ具現化しているのではないだろうか。実際に、「～に期待です」「～に注目です」などは、ニュースの締めくくりの際にも、またブログでの談話の締めくくりの際にも共通に現れる形式となっていることが観察された。

今後、より多くの実例を継続的に観察・検討し、これらの「～です」文の意味・機能をより詳細に分析した上で、双方の関連性について精緻に論証していくことを課題としたい。

注

- 1) 本稿では、影山（1993）にならい、「する」を伴って動詞化できる表現（「散歩」「研究」「買物」「チェック」「カット」等）を「動名詞」（verbal noun：VN）とする。
- 2) 本稿では例文には実例を用いる。考察の対象とする「～です」表現には下線を付して示す。
- 3) 「10.01.12」は実例の採取日が2010年1月12日であることを示す。「N」「7」「真」など実例を採取した番組名を示す略記号は、本稿末尾にまとめて記している。
- 4) 「対策強化」「大修理」は、「*対策強化する」「*大修理する」の形にはできない（「対策を強化する」「大修理をする」であれば可能）ため、動名詞とは考えない。ニュース報道に見られる「～です」文では、全ての名詞が「する」を伴って動詞化できるわけではない。
- 5) ブログとは、ウェブ上に公開されているサイトの一種で、公的なホームページ等に比べると、発信者個人あるいはグループが日記形式で気軽にかつ頻繁に情報を更新していくことのできるタイプの情報発信サイトである。画像や動画を伴う場合もある。時系列に沿った形式であることから、日記タイプで作成される場合が多く見られ、使用される語彙も日常的であったり、話し言葉をそのまま文字化しているような文体が見られるなどの特徴がある。
- 6) ここでは、挨拶等に用いる儀礼的な表現（「さようなら、じゃまた、おはよう、ただいま、お帰り、ありがとう、すみません」等）を「感動詞相当句」とする。
- 7) ブログから採取した実例については、記事の日付とともにURLを記す。
- 8) 本稿では、鈴木（2009, 2010）において採取できなかった語種の動名詞（VN）も含め、報道番組から採取し

た実例にはすべて日付を記すこととしている。また、ブログに見られる「～です」文についても、検索対象とする動名詞 (VN) および感動詞相当句の範囲を広げ、実例を採り直し直した。

- 9) ここで言う「意味・機能」は、どのような場面・文脈で、話者（書き手）がどのような意図を持って発話（あるいは記述）を行い、聞き手（読み手）にどのようなことを伝えようとするかという、いわゆる語用論的な意味も含むものである。
- 10) 用いられる名詞は漢語だけに限らず、「下書キハ書キカケダ」のような和語の場合や、「選手タチハ大会本部前カラストデス」「経済成長率ハ3.5パーセントデストップダ」のような外来語の例もあるとしている。
- 11) 「ウナギ文」とは、「AはBだ／です」という名詞文の述部「名詞 (B) +だ／です」の部分が、「名詞 (B) +格助詞+ {動詞／形容詞}」の代用をしているとされるものである [奥津 1978]。例えば「ワタシハカレーライスデス」は、文脈により「私はカレーライスを注文する／カレーライスが好きだ」等の意味に解釈できる。
- 12) 高橋 (1984) の用語では「動作づけ」である。
- 13) 早川 (1986:226) も、高橋 (1984) に「動作づけ」の文が挙げられていることに触れているが、その詳細については述べられていない。
- 14) 「絶交する」「出発する」「リサイクルする」「秘密にする」「テストをする」などである。
- 15) 例(10)(11)の「いたずら」「けんか」は動名詞 (VN) と考えられるが、例(12)の「新事実」は「*新事実する」の形にできないため、動名詞ではない。
- 16) 阪田 (編著) (2003:35-36) も、名詞述語が「動作・変化」のような「動詞的な意味」を表す場合があるとしている。「動作づけ」を、仮にこのように「動詞の意味を表す」として解釈するならば、ニュース報道等における「動名詞 (VN) +です」文についても確かにそうであると言うことはできる。しかし、これだけでは記述の抽象度が高すぎるため、ニュース報道やブログなどのある特定の文脈に見られる「～です」文の意味・機能が十分に記述できるとは言えない。
- 17) 森川 (2009) は、主文に現れる「ダ」は話し手（書き手）の判断を主張あるいは明言するものであるとし、これを「断言」の「ダ」と呼び、命題内容を客観的に叙述する働きとは区別している。
- 18) 例えば、料理屋で料理を注文するという文脈のもので「僕はうなぎだ」と言えば、「僕はうなぎを食べる／注文する」の意味に解釈できる。また、必ずしも「AはBだ」の形でなくとも、「雨だ」のような文が「雨が降っている」の意味に解釈される例も挙げられている [奥津 1978]。
- 19) 阪田 (編著) (2003:35-37) は「漢語動作名詞や和語動詞連用形がすべて名詞述語として用いられるわけではない」とし、「明朝出発だ」「毎回出席だ」は言えるが、「彼は活躍だ」「A社は発展だ」「彼は迷いだ」「彼は今出かけた」のような言い方はないと指摘している。ただし、ニュース報道では、「日本人ストライカーがヨーロッパリーグで活躍です」「途上国において、今A社が大発展です」（いずれも作例）のような発話は可能と思われる。
- 20) 「もと女王 (φ)、完全復活へ険しい道のりです」(10.09.07「ス」)、「絶滅を防ぐための取り組み (φ)、大きく前進です」(11.02.10「7」) のように格助詞「が」を伴わず、同時に「は」も現れないという例も見られる。
- 21) (18a)(19a)は、もちろん単独の文としては非文とは言えない。ニュースキャスターが新しいニュースを取り上げる際には、通常は用いられないという意味で「？」を付している。
- 22) 「静岡県御殿場高校から中継でした」(10.10.28「おはよう」) のように、慣習的に「中継でした」の形でレポートが締めくくられる例は観察される。メイナード (2000, 2005) も、「情意の『だ』」は、活用形は「だ」「です」に制限され、タ形は使われなかったとしている。
- 23) 「築地市場の初競りで異変が続々です。」(10.01.05「ス」) のように、「副詞+です」の形をとる例も観察された。「“続々(生じる)”という事態が起こっている」と解釈できる。
- 24) ブログの記事には読み手から「コメント」を受け、それにさらに回答するという機能もあり、実際にコミュニケーションを双方向的に行うことも可能である。
- 25) 現代語約8万語を意味分野ごとに分類している国立国語研究所 (2004) をもとに、人の心情に関する意味分野（「感動・興奮」「恐れ・怒り・悔しさ」「安心・焦燥・満足」「苦悩・悲哀」「好悪・愛憎」「敬意・

- 感謝・信頼など」「信念・努力・忍耐」「自信・誇り・恥・反省」「欲望・期待・失望」「注意・認知・了解」「研究・試験・調査・検査など」「判断・推測・評価」「決心・解決・決定・迷い」)の中から動名詞 541 例を抽出し、ブログを対象とするサーチエンジン (Yahoo! ブログ検索 <http://blog-search.yahoo.co.jp/>) により「VN です」がどのような形で用いられているか検索を行ってみた。通常の名詞文とは異なる用い方の例がどれぐらい見られるかを探るため、検索の際には通常の「VN です」だけではなく、「{を/に} VN です」の形も用いた。その結果、通常の名詞文とは異なる使い方のされている例が比較的多く見られた「感謝、注目、感激、期待、感動、反省」(助詞の別を考慮しない件数で 2 万 5 千件以上)の中から、ここでは互いに意味的重なりが少ない特徴的な表現を例として取り上げる。
- 26) 採取した実例がウェブ上のブログ記事であるため、句読点の付されていない文章、段落以外の箇所に行改行やスペースを多用している文章、文末等に絵文字を挿入している文章なども多く見られた。例として掲げる場合、適宜改行を削除し、改行位置やスペースで区切られた箇所に句読点を補い、絵文字を省略するなどの加工・整形を施している部分がある。ただし、助詞の脱落と考えられる部分などを含め、文章内容については修正していない。
- 27) 岡本 (2007) は、ブログは不特定多数に向けて発信されるもので、特定の受け手に向けたコントロールはできず、送り手は誰がそれを読むかを直接知ることはできないとする。
- 28) 我々はことばを使うことによって何らかの行為 (発話行為 *speech act*) を行っている。「感謝します」「約束します」などは、それを発話することによって、ある特定の行為 (「感謝」や「約束」をすること) を明示的に遂行することのできる動詞で、遂行動詞 (*performative verb*) と呼ばれる。[オースティン 1978]
- 29) 「依頼」という行為は遂行動詞「依頼します」「頼みます」によって遂行することもでき、また「(よろしく) お願いします」も、日本語においては依頼を表す表現として一般的に用いられている。[鹿嶋 2003:207-208]
- 30) 感謝や謝罪の行為は、「感謝します」「謝罪します」などの遂行動詞によって遂行することもでき、また「ありがとう」「ごめんなさい」「すみません」なども、日本語において感謝・謝罪を表す表現として慣用化し、用いられている [鹿嶋 2003:208]。

参考文献

- 早川勝広 1986 「文の類別の観点—表現文法序説」『学大国文』29, pp.209-227, 大阪教育大学国語国文学研究室。
- 影山太郎 1993 『文法と語形成』ひつじ書房。
- 鹿嶋 恵 2003 「発話行為」小池生夫 (編集主幹) 『応用言語学事典』pp.206-209, 研究社。
- 国立国語研究所 2004 『分類語彙表 (増補改訂版)』大日本図書。
- メイナード、泉子・K 2000 『情意の言語学—「場交渉論」と日本語表現のバトス—』くろしお出版。
- メイナード、泉子・K 2005 『[日本語教育の現場で使える] 談話表現ハンドブック』くろしお出版。
- 三上 章 1972 『現代語法序説』くろしお出版。(初版 刀江書院, 1953 年)
- 南不二男 1973 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店。
- 森川正博 2009 『疑問文と「ダ」—統語・音・意味と談話の関係を掘り明かして』ひつじ書房。
- 岡本真一郎 2007 「ブログの心理学的特徴」『日本語学』26-4, pp.4-15, 明治書院。
- 奥津敬一郎 1978 『「ボクハ ウナギダ」の文法—ダとノー—』くろしお出版。
- オースティン, J.L. 1978 『言語と行為』(坂本百大訳) 大修館書店。
- 阪田雪子 (編著) 新屋映子・守屋三千代 (著) 2003 『日本語運用文法—文法は表現する—』凡人社。
- 鈴木智美 2009 「ニュース報道における『{動名詞 (VN) / 名詞 (N) } + です』文について—『現地を緊急取材です』『老舗料亭に問題発覚です』—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』36, pp.57-70。
- 鈴木智美 2010 「ブログ等に見られる『{動名詞 (VN) / 感動詞相当句} + です』文について—『～に感謝です』『～をよろしくです』の意味・機能—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』37, pp.15-28。
- 高橋太郎 1984 「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」『日本語学』3-12, pp.18-39, 明治書院。

実例採取

「イ」：「イブニングワイド」(TBS テレビ)、「N」：「THE・NEWS」(TBS テレビ)、「おはよう」：「おはよう日本」(NHK テレビ)、「海」：「NHK 海外ネットワーク」(NHK テレビ)、「真」：「真相報道バンキシャ!」(日本テレビ)、「ス」：「スーパーニュース」(フジテレビ)、「スタ」：「N スタ」(TBS テレビ)、「7」：「ニュース7」(NHK テレビ)、「フラッシュ」：JNN フラッシュニュース (TBS テレビ)

The Meanings and Functions of Japanese “...*desu*” Constructions as Observed in Recent TV News Programs and Weblogs: “...*wo tetteishuzai desu*,” “...*ni kitai desu*,” and “...*wo yoroshiku desu*.”

SUZUKI Tomomi

The purpose of this paper is to consider the meanings and functions of Japanese “...*desu*” constructions as observed in recent TV news programs and weblogs. These constructions end in the form of “Verbal Noun(VN)/Noun(N) *desu*” in television news programs, and “Verbal Noun(VN) *desu*” or greeting words followed by “*desu*” such as “*yoroshiku desu*,” or “*arigatoo desu*,” etc. in weblogs.

In news programs these constructions are used by a reporter in order to announce a new change or development in the news story or to point out that the situation has entered some new, remarkable phase. In weblogs the constructions are used by bloggers to indicate their private feelings or make a request toward the reader without imposing mental pressure. For example, in the case of blogs it is observed that some “...*desu*” expressions are used in place of performative verbs, such as “*kansha shimasu*”, or to relay the request, gratitude, and apology typical of conventional expressions such as “*yoroshiku onegaishimasu*”, “*arigatoo*”, and “*gomennasai*”.

The asserting function of “*desu*” seems to be realized in different ways in each construction. The “Verbal Noun(VN) *desu*” construction is shared in both contexts with different Verbal Nouns.